

## 富津市健康づくり推進協議会会議録

1	会議の名称	令和元年度第1回富津市健康づくり推進協議会
2	開催日時	令和元年7月31日（水） 14時00分～15時00分
3	開催場所	富津市役所5階 503会議室
4	審議等事項	(1) 平成30年度事業実績について (2) 令和元年度事業について
5	出席者名	小泉義行会長、田中治実副会長、岡根茂委員、山口和久委員、渡辺初美委員、大野泰代委員、永井敏子委員、藤平健司委員、久保秀一委員代理川名千春副センター長、赤井義昭委員、井戸義信委員、渡邊まさ子委員、島津健康福祉部長、牧野健康づくり課長、鹿島特定健診係長、平野健康づくり係長、佐藤主査、圓川主査、栗本主任保健師、三枝主任管理栄養士、山口主任保健師、中川主任保健師
6	公開又は非公開の別	公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0人
9	所管課	健康福祉部健康づくり課
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

## 第 1 回富津市健康づくり推進協議会会議録

	発 言 内 容
平野係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開会の宣言</li> </ul>
島津部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員の紹介</li> <li>・ 事務局の紹介</li> </ul>
平野係長	<p>本日の会議の内容は、富津市情報公開条例第 23 条の規定により公開となる。傍聴人はいない。</p> <p>14 名の委員のうち出席者 12 名で過半数を超えているため、富津市健康づくり推進協議会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により会議は成立する。</p> <p>会長に挨拶をお願いします。</p>
小泉会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長挨拶</li> </ul>
平野係長	<p>議事の進行については、富津市健康づくり推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定により、会長が議長となる。</p> <p>小泉会長には議事進行をお願いします。</p>
小泉会長	<p>議題に入る前に、会議録署名委員を私から指名させていた</p>

	<p>だく。</p> <p>会議録署名委員に、藤平健司委員、永井敏子委員のお二方          をお願いする。</p>
藤平委員	<p>了解した。</p>
永井委員	<p>了解した。</p>
小泉議長	<p>それでは次第3の議題に入る。</p> <p>(1)の「平成30年度事業実績について」を議題とする。</p> <p>事務局の説明を求める。</p>
牧野課長	<p>平成30年度の事業実績について説明する。</p> <p>健康づくり課の事業として、(1)健康増進事業、(2)母子保健事業、(3)予防接種事業、(4)特定不妊治療費助成事業、(5)妊娠・出産包括支援事業、(6)がん検診、(7)栄養改善事業、(8)献血事業、(9)自殺対策推進事業、(10)特定健康診査等事業、があり、これらについて説明する。</p> <p>4ページ、1.健康増進事業の〔1〕健康増進法による健康診査は、40歳以上の健康保険未加入の方を対象とした健康診</p>

査。平成 30 年度は、対象者 132 名に対し、22 名が受診し、受診率は 16.7%。(前年度比較 0.9%増)

次の〔2〕若年健康診査は、18 歳から 39 歳までの市民で、勤務先で受診の機会の無い方、国民健康保険加入者や社会保険の扶養者を想定して市で独自で実施している。特定健康診査は 40 歳から始まるので、その前から生活習慣病の発症を予防しようとするもので、387 名の方が受診した。

次に、〔3〕肝炎ウイルス検診は、C型肝炎、B型肝炎に感染しているかどうかの検査を実施したもの。今まで検査を受けていない 40 歳以上の方すべての方が対象で、5 歳毎に、はがきにより受診勧奨し、337 名の方が、また、勧奨者以外では 108 名の方が受診した。

続いて、5 ページ、〔4〕成人歯科健康診査は、高齢期における健康維持のため、歯周疾患検診をおこなった。対象者を 40 歳、50 歳、60 歳、70 歳の方とし、市内の歯科医療機関で実施した。対象者にはがきで受診勧奨を行い、92 名の方が受診した。

〔5〕健康教育・健康相談は、生活習慣病予防の理解を深めていただくとともに、健康的な日常生活が送れるよう健康や栄養に関する教室などを開催した。

①の健康教育の結果説明会は、10回開催し、273名の参加があった。出前講座等は、24回開催し694名の参加があった。健康栄養教室は5回開催し75名の参加があった。

②の健康相談は、健康診査受診者を対象にその結果を基に、保健指導を行う健康相談は1,291名の方に、生活習慣病予防の食事相談を行う栄養相談は255名の方に行った。

続いて〔6〕訪問指導は、病気を早期に予防するため、必要に応じて保健師または栄養士が各家庭に訪問いたしました。平成30年度は450名の方に延べ508回行った。

続きまして、6ページ、2.母子保健事業。

妊娠中の栄養、乳児の離乳食、幼児の食事、乳幼児の生活指導、保健指導を行い、母子の健全な成長を図るための支援を実施した。

〔1〕母子相談は、月齢に沿って細かく教室を開催しており、保健師や栄養士が機会ごとに声をかけ、参加者を増やし、孤立する母子を防ぐなどの支援となっているものと考えている。実施回数、人数については、記載のとおり。

次の〔2〕妊婦乳児健康診査は、健康な妊娠、出産を迎えるため、医療機関で行う健康診査に受診券を発行し補助を行うもの。妊婦健康診査は14回分で、延べ2,183名。乳児健

康診査は 2 回分で 延べ 240 名の受診数だった。

次に、〔3〕 1 歳 6 か月児健診・ 3 歳児健診、これらは母子保健法に基づき行っているもので、 1 歳 6 か月児健診は受診者 201 名で、受診率 88.5%、実施回数は 9 回。 3 歳児健診は受診者 216 名で、受診率 88.9%、実施回数は 9 回。健診を受けるという意識のない方や、 2 人目 3 人目だから、という方もいるが、保健師が電話するなどして参加を呼びかけた。

次の〔4〕 母子保健訪問指導等は、妊娠、出産・育児がそれぞれの過程で健全に行われるよう、保護者の支援を目的に母子保健指導を実施した。延べ人数は、妊産婦 343 名、新生児 147 名、乳幼児 235 名を訪問した。

続いて、 7 ページの 3. 予防接種事業について。予防接種は、予防接種法に基づき、感染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するため実施しているもので、実績は一覧表に示したとおり。

次に 4. 特定不妊治療費助成事業。

高額となる不妊治療費の一部を助成する事業である。平成 30 年度の助成は 16 件であった。

続いて、 8 ページ。 5. 妊娠・出産包括支援事業について。

平成 30 年度からの新規の事業で、産後、退院後の母子に対

して心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てできるように支援を行う事業である。平成30年度の利用は2件であった。

5.がん検診は、8～10 ページの大腸がんまでの項目について、国の指針に基づき行っている。

まず、〔1〕胃がん検診は、40歳以上の市民の方を対象に7月から12月にかけて胃部X線間接撮影（バリウム検査）を実施したもので、599名の方が受診し、受診率は、対象者を住民基本台帳人口の40歳以上の人口で算出し、1.9%。

〔2〕子宮がん検診は、20歳以上の女性を対象に、医療機関で行う個別検診では4月から1月まで、集団検診では7月に実施し、個別で821名、集団で310名の方が受診し、受診率は5.9%。

9ページ、〔3〕乳がん検診は、30歳以上の女性を対象に、11月に、超音波検査（エコー）とX線撮影（マンモグラフィ）を行い、個別で16名、集団で1,284名の方が受診し、受診率は7.4%。

次の〔4〕結核・肺がん検診は、40歳以上の市民の方を対象に胸部X線撮影を行ったもの。3,314名の方が受診し、受診率は10.7%。

〔5〕喀痰検査は、肺がん検診受診時の問診票にて、喫煙指数（1日の喫煙数×喫煙年数）が600以上（例：1日30本以上喫煙する方で20年以上喫煙している）に該当した方などを対象に検査を行うもので、268名が対象となり、47名の方が受診した。

次に、10ページの〔6〕大腸がん検診は、5月から12月にかけて、40歳以上の市民の方を対象に、便潜血反応検査を実施し1,295名の方が受診し受診率は4.2%。

各種のがん検診に受診率については、平成29年度は子宮がん検診と大腸がん検診が平成28年度と比べて上昇したが、平成30年度は子宮がん検診と大腸がん検診受診率が更に上昇し、加えて胃がんと喀痰検査の健診受診率も上昇しました。

対象者への通知は40歳、50歳、60歳、70歳の方へも勧奨通知を行うなど、勧奨方法等検討し、受診率向上に努めていきたいと考えている。

続いて、7.栄養改善事業。

食生活改善推進員の資質向上のために栄養教室や、市の管理栄養士と食生活改善推進員の協働で食生活改善事業を実施した。

栄養教室は、食生活改善推進員に対する情報提供、技術指



導等で、10回開催し、延 182名の参加があった。

わくわく栄養教室は、食生活改善推進員になるための養成教室で、平成30年度は7回開催し53名の参加があった。

次に、推進員活動支援は、イベントや健診会場等で推進活動の支援を行ったもので、54回開催し383名の参加があった。

次に、食生活改善事業は、一般市民対象に健康づくり教室の開催や、地区のイベントの参加など、3回開催し174名の参加があった。

次に、食育教室は、富津小学校での食育教室と、湊小学校での親子食育教室を行ったもので、49名の参加があった。

なお、昨年12月には、本市食生活推進協議会が委員の皆様方の30年を超える長きにわたる活動と功績を認められ、全国食生活改善大会において、厚生労働大臣表彰を受賞されている。

次に、8.献血事業は、事業主体は 日本赤十字社千葉県赤十字血液センターで、移動採血車（献血バス）の日程を調整し、市役所その他、市内の事業所等に協力を依頼し行っている。

医療技術の高度化や輸血を多く必要とする高齢者の増加により輸血用血液の重要は年々増えている。市では毎年目標を

掲げ実施し、平成 30 年度は、200ml の献血者は 17 名、400ml は目標を上回る 954 名の方から協力をいただいた。

次の 9.自殺対策推進事業につきましては、自殺対策を総合的に推進するため、市民一人ひとりの気づきと見守りを促すことの周知や自殺予防の啓発を行った。

続いて 11 ページ、10.特定健康診査等事業は、国民健康保険加入者の健康の保持増進と、医療保険制度の安定した運営のために「高齢者の医療の確保に関する法律」に規定され義務づけられたもので、〔1〕特定健康診査事業と〔2〕特定保健指導事業と〔3〕国保保健指導事業を「第 2 期保健事業実施計画（データヘルス計画）（第三期特定健康診査等実施計画）」に基づき行った。

〔1〕の特定健康診査事業は、40 歳以上 74 歳までの国保加入者が対象で、糖尿病などの生活習慣病予防のためメタボリックシンドロームに着目した検査内容で、更に、慢性腎臓病などの予防のため血清クレアチニンなどの検査を国の項目に追加して行った。

対象者全員に集団検診か個別検診を選択して受診していただいており、期間は 5 月から 8 月まで、自己負担は 500 円、ただし 70 歳以上の方と非課税世帯の方は無料となっている。

	<p>続いて 12 ページ、成果・進捗状況の表の、中央部分、受診者数は集団健診と個別健診合わせて 4,049 名で、受診率は 45.03%となっている。</p> <p>また、〔2〕の特定保健指導事業は、特定健診の結果から保健指導が必要となる方を抽出して行うもので、腹囲が基準以上の方や、基準以下でも BMI が高い方を対象に「動機付け支援」と、更に基準値が高い項目が多い方に「積極的支援」を行った。実施者は両方で 295 名、実施率は 64.98%。</p> <p>特定健康診査の受診率と特定保健指導実施率は、県内のランキングで上位に位置するが、今後も特定健康診査の受診者を増やし、健診・医療情報を活用して策定したデータヘルス計画を基に効果的な保健指導の実施と評価を行いながら、生活習慣病や慢性腎臓病などの発生予防、重症化予防に努めて、市民の健康を守っていききたいと考えている。</p> <p>以上が平成 30 年度事業実績についての説明である。</p>
小泉議長	これより質疑に入る。質問、意見等あるか。
岡根委員	7 ページの予防接種事業について
	定期予防接種とあるが、接種率が 100%を超えるというの

	<p>はどのような状況だろうか。</p>
<p>牧野課長</p>	<p>対象者数について、標準的な年齢の対象者数の数であり、接種者数については標準的な年齢以外で予防接種法に定められた期間内に接種した方、例えば、3歳から標準的な対象者とする、3歳以前から接種している方は、予防接種法で可能な年齢もあるので、接種者数が対象者数を上回り、100%超過する状況となる。</p>
<p>岡根委員</p>	<p>わかりました。</p>
<p>小泉議長</p>	<p>では、他に質問、意見等はないか。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>質問ではないが、市民の方から伺ったことで、肺がん検診を受けて、要精密検査になって、初期の段階で肺がんが見つかって、手術してすごく元気になって、検診に行って良かったとおっしゃっていた。そんな話題を市民の皆さんに提供できるといいと思う。匿名でも良いので、そういう話題を市民の皆さんに知らせる機会があれば良いと思う。</p>

<p>牧野課長</p>	<p>今、渡邊委員からお話をいただいたが、9 ページの結核肺がん検診の精検結果の肺がんの項目で 10 名の方が発見されている。ご意見をいただいたことを参考に検診を受けていただくように啓発をしていきたいと思う。</p>
<p>小泉議長</p>	<p>他に質問、意見等はないか。</p>
<p>岡根委員</p>	<p>データがあれば結構だが、4 ページの若年健康診査で 18 歳から 39 歳で幅が広いので、387 人の内訳で、この年代が多い少ないというのがあるか。</p> <p>あと成人歯科健康診査で 40・50・60・70 歳とあるが 92 人の中での内訳はどうか。</p>
<p>中川主任</p>	<p>成人担当の中川です。詳細な年齢データは手元には無いが、若年検診の勧奨で 18 歳から 39 歳で 30 代の方 30 歳から 39 歳の方は市民の方皆様にハガキを送付していて、18 歳から 29 歳の方 20 代の方については今まで検診を受診されたことのある方、という限定した勧奨の仕方なので、全体を見ると勧奨している分 30 代の方がやはり来ていただいている。若年の方に来ていただきたいので、他の乳幼児健診で 20 代の方が来</p>

	<p>ていただけるので、勧奨してできるだけ増やしていく。各実績はないけれども、30代になるにつれて受診率は上がってくる傾向である。</p>
岡根委員	<p>歯科の方はどうか。</p>
鹿島係長	<p>昨年の実施結果によると、40歳が13人、50歳が10人、60歳が22人、70歳が47人の合計92人である。</p>
岡根委員	<p>わかりました。</p>
小泉議長	<p>他に質問、意見等はないか。</p>
渡邊委員	<p>富津市からは木更津市で行われる、よい歯コンクールの応募はないか。</p>
佐藤主査	<p>本年度募集をかけたところ、一人該当があったが、交通の面、日程的な面で辞退されて、結果0人となった。</p>
渡邊委員	<p>それは募集になるのか。あなたに推薦します、ではなくて。</p>

佐藤主査	はい。
渡邊委員	わかりました。
小泉議長	<p>他に質問、意見等はないか。</p> <p>特になければ、次の（２）の「令和元年度事業について」を議題とする。</p> <p>事務局の説明を求める。</p>
牧野課長	<p>会議資料 15 ページ。</p> <p>最初に、健康増進事業は、健康増進法に基づき健康保険未加入者及び若年層の健康診査を実施し、併せて保健指導や健康教育、健康相談、訪問指導を行うことで、生活習慣病の発症予防や重症化予防を図る。また、肝炎ウイルス検診を実施し、肝がんや肝硬変の発症予防を図る。</p> <p>なお、成人歯科健診を実施し、高齢期の口腔内の衛生状況の向上と口腔機能低下の予防を図る。</p> <p>予算額は、7,494,000 円</p> <p>また、平成 30 年 7 月に、健康増進法の一部を改正する法</p>

律が成立し、その一部が本年 7 月 1 日から施行されたことに伴い、学校、病院、児童福祉施設、行政機関などが、原則敷地内全面禁煙となった。これについては施行前から広報ふっつや市ホームページにより、情報発信するとともに、市役所本庁舎をはじめ、今回の対象施設となった市行政施設のうち、第 1 種施設においては、各施設管理者において、特定屋外喫煙場所以外は禁煙とするなど、望まない受動喫煙なくすための対策を講じたところである。

次に、母子保健事業でございますが、母子の健康保持増進を図るため、母親及び乳幼児に対する健康診査、保健指導及び歯科衛生指導を実施する。

予算額は、24,750,000 円。

なお、母子健康手帳は健康づくり課で保健師が面接にて発行することで、すべての妊婦について妊娠期から保健師が関わり、出産、乳幼児期の健診等包括して支援している。また、各種検診時の歯科衛生指導に加え、今年度から歯科衛生士が配置となったことから、市内保育所や小学校に歯科衛生士が出向いて、歯科衛生指導を行っている。

次に予防接種事業でございますが、予防接種法に基づき、各種感染症のまん延を防ぎ、市民の健康維持を図る。



なお、昨年から流行している風しんの感染が拡大しており、妊婦が感染すると、生まれてくる子どもに先天性風しん症候群の発生の可能性が高くなることから、これまで定期接種の機会が無かった昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 57 年 4 月 1 日までの間に生まれた男性を対象に、抗体検査及び予防接種を公費で受けってもらうことで、風しんの感染拡大を防ぐ。

予算額は、9,622 万円。

続いて、16 ページ。

がん検診事業は、がんによる死亡者数を減少させるため、胃がん、結核肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がんの各種がん検診を実施し、がんの早期発見に努めていく。子宮がん、乳がん検診については、該当年齢の方に無料クーポン券を発行し受診してもらえよう勧奨を行う。

また、今年度は、胃がん、肺がん、大腸がんの検診を受けたらスタンプを押し、3 つのスタンプでゴミ袋を進呈するスタンプラリーを行い、受診率の向上に努めている。

予算額は、28,574,000 円。

次の食生活指導事業は、市民の健康増進のため、富津市食生活改善推進員を中心に、各種健康づくり教室や栄養相談を開催し、生活習慣の改善指導を行う。

予算額は、300,000 円。

次に、献血事業。地元協力団体を軸として一層の啓発と献血の推進を図っていく。

予算額は 53,000 円。

次に、17 ページ。

平成 30 年度から引き続き、妊娠・出産包括支援事業として、産後の母子に対するサポート、「産後ケア」を行う。

予算額は 781,000 円。

次に、特定不妊治療費助成事業。高額な治療費が必要となる特定不妊治療を受けた夫婦に対しその治療費の一部を助成する。

予算額は、1,800,000 円。

続いて、休日在宅当番医事業は、休日でも市民の健康を守るため、地元医師会の協力をいただきまして、輪番制により実施する。また、歯科医師会の協力にて、年末年始の歯科在宅当番医事業を実施する。

予算額は、2,151,000 円。

次に、君津中央病院企業団負担金。

君津中央病院は君津地域 4 市を構成団体として運営、地域医療の中核をなしており、その負担金となる。

予算額は、280,426,000 円。

次に、18 ページ。

広域市町村圏事務組合負担金は、夜間の急病に対する医療体制として設置されており、君津郡市夜間急病診療所の運営費、また、休日と夜間に直ちに入院治療を必要とする患者へ対応する施設（二次待機施設）の運営費等に対する負担金で、

予算額は、30,959,000 円。

最後に、特定健康診査等事業。被保険者の健康の保持増進を行うとともに医療保険制度を安定的に存続させるため『高齢者の医療の確保に関する法律』の規定により医療保険者に義務付けられたもので、平成30年度に策定した「第三期富津市特定健診等実施計画」に基づいて実施する。

今年度も、どの年齢でも集団健診方式と個別健診方式の選択ができ、また、3年継続受診者には減塩醤油の引換券を進呈して、継続的な受診の勧奨及び受診率の向上を目指す。

また、千葉県国民健康保険保険給付等交付金を活用し、特定健診未受診者対策事業、早期介入保健指導事業として、国保加入者で、若年検診受診者の保健指導事業、そして生活習慣病の発症予防、重症化予防事業を実施する。重症化予防では、君津木更津医師会富津支部の医療機関の医師の方々のご

	<p>協力をいただき、慢性腎臓病予防に向けた医療連携会議を開催し、特に糖尿病性腎症の重症化予防に向け、糖尿病等の未治療者や中断を予防する取組みを実施している。</p> <p>予算額は特定健康診査が、48,981,000円、特定保健指導が、829,000円、国保保健指導事業が、6,023,000円。</p> <p>以上で、令和元年度健康づくり課の実施事業についての説明を終わる。</p>
小泉議長	これより質疑に入る。質問、意見等あるか。
永井委員	最後のページだが、国保保健指導事業の中で、健康診断で結構農協を使う人もいるが、検診結果を提供すれば、ゴミ袋はいただけるのか。
鹿島係長	はい。提出していただければ、特定健診とみなす同等の検査をしているので、継続して3年間提出していただければ進呈します。
永井委員	わかりました。

小泉議長	<p>他に質問、意見はないか。</p> <p>特に無いようでしたら、本日の議題は全て終了したので、議長の職を解かせていただく。ご協力ありがとうございました。</p>
平野係長	<p>委員の皆様には長時間に渡り、慎重審議ありがとうございました。以上をもって、令和元年度富津市健康づくり推進協議会会議を閉会とさせていただきます。</p> <p>お疲れ様でございました。</p>